

〔カンショ〕

1. 作付の概況

2017年度の全国の作付面積は35,600ha、このうち九州は17,500ha、沖縄は281haであった。前年度に比べ、全国では400ha、九州では100ha、沖縄は13haの、いずれも減であった。九州ではほとんどの県で作付面積が減少しており、面積が増加したのは大分県および宮崎県のみで、それぞれ前年比101%および103%であった。全国の10a当たり収量は2,270kgで、前年産との対比で5%下回った。これは、主産地である九州地域において9月以降の日照不足および多雨等の影響により、いもの肥大が抑制されたためである。収穫量は807,100tで、前年産に比べて53,600t減少した（前年比6%減）。

2. 作柄の概況

鹿児島県では、生育期間を通じて平均気温はほぼ平年並みであったが、6月中旬～下旬は平年をやや下回り、7月上旬～8月下旬は高く推移した。また、10月上旬～中旬も高温であった。降水量の合計は平年を大きく上回り、特に7月上旬、8月上旬、9月中旬～下旬および10月下旬に、まとまった雨が降った。日照時間の積算はほぼ平年並みであったが、9月中旬～10月下旬では、10月上旬を除いて平年を下回った。このような収穫期の多雨および日照不足により、いもの肥大が抑制されたと考えられる。本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,370kgで、前年産を12%下回り、平均収量対比は95%であった。また、収穫量は282,000tで、前年に比べて40,800t（13%）の減であった。

宮崎県では、平均気温については鹿児島県と同様で、生育期間を通じて平均気温はほぼ平年並みであり、6月中旬～下旬は平年をやや下回り、7月上旬～8月下旬は高く推移した。また、10月上旬～中旬も高温であった。降水量は平年よりやや多く、特に7月上旬、8月上旬、9月中旬～下旬および10月下旬が多かった。日照時間は、積算では平年並みであったが、9月中旬以降は平年を下回っており、収穫期の日照不足により、いもの肥大がやや抑制されたとと思われる。宮崎県の10a当たり収量は2,440kgで、前年産を5%下回り、平均収量対比は96%であった。収穫量は90,000tで、前年に比べて2,300t（2%）減少した。

（九州沖縄農業研究センター畑作研究領域 甲斐 由美）

2017年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					
				作付面積		10a当たり 収量		収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比	
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)		
全国	35,600	2,270	807,100	△ 400	99	95	△ 53,600	94	
九州	17,500	2,340	410,100	△ 100	99	-	-	-	
福岡	140	1,450	2,030	△ 5	97	-	-	-	
佐賀	85	1,900	1,620	△ 4	96	-	-	-	
長崎	325	1,430	4,650	△ 14	96	-	-	-	
熊本	1,000	2,230	22,300	△ 20	98	100	△ 400	98	
大分	369	2,020	7,450	3	101	-	-	-	
宮崎	3,690	2,440	90,000	100	103	95	△ 2,300	98	
鹿児島	11,900	2,370	282,000	△ 100	99	88	△ 40,800	87	
沖縄	281	1,360	3,820	△ 13	96	-	-	-	

注)平成29年産かんしょの作付面積及び収穫量(農林水産省大臣官房統計部 平成30年2月6日公表)に基づいて作成